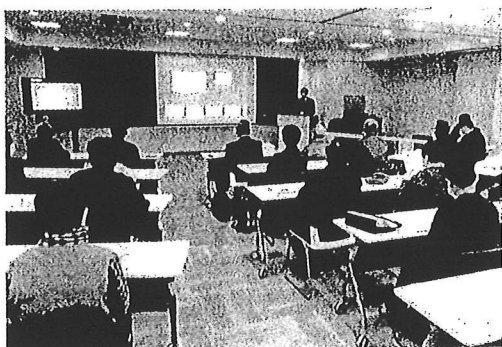


患者会を設立し、 記念講演会を開催

札幌白石記念病院

札幌白石記念病院（白石区）で、患者会「すこやかハート白石友の会」が設立された。患者さん同士が交流すること
で情報交換や不安の解消を図ることが目的。設立総会では同病院の角野聡副院長と、札幌医科大学心臓血管外科学講座の川原田修義教授が記念講演を行った。

角野副院長は、同病院が心臓血管外科を開設して1年が経過した経緯を振り返り、心臓・胸部大血管手術、腹部大動脈手術、末梢血管手術、下肢静脈瘤手術など10月末時点で125例実施したことを紹介した。



記念講演会の模様

小さな傷で治療できる低侵襲心臓手術（MICS）は、若年者に有効だが、高齢者に対しても積極的に実施し、QOLの回復が期待できると指摘。今後は胸部大動脈瘤手術（ステントグラフト内挿術）、内視鏡下低侵襲不正脈手術も実施する予定だと述べた。

心臓手術を受けた方に向け、術後半年を経過すれば何をしても問題なく、人生を楽しんでほしいとし、「信頼できるかかりつけ医をみつけ、半年か1年に1度は受診し、定期的な体と心臓のチェックをすることが大切」と呼び掛けた。

川原田教授は、緊急手術を要する破裂性腹部大動脈瘤と急性大動脈解離（スタンフォードA型）について解説。腹部大動脈瘤は無症状のため、自身では気付かないことが多く、他の病気で腹部エコーやCTを行い、偶然みつかるといふケースがほとんどだと指摘。

腹痛、腰痛等の痛みが出現した際は、破裂しないし切迫破裂（破裂しかかった状態）と考えられ、破裂すると出血多量でショック状態に陥り、死に至る可能性がある」と説明。破裂した場合は病院搬送前に30〜40%、手術時でも40〜50%が死亡しており、全体の死

亡率は80〜90%に及ぶと指摘。人工血管置換術、ステントグラフト内挿術による治療法も詳しく紹介した。

急性大動脈解離は、「正常な大動脈に突然発症するわけではなく、それ以前から『解離の準備段階』が時間をかけて作られている」と説明。解離は、三層構造の血管の壁にできた裂け目が拡大することで発症し、心臓に近い上行大動脈にできるスタンフォードA型は緊急手術を要すると解説。特に高血圧症の方は注意が必要と述べた。

講演の最後に、加齢、高血圧、肥満、運動不足、家族歴、他の動脈硬化性疾患等が腹部大動脈瘤のリスクとし、「特に喫煙は危険率が跳ね上がる」と注意を呼び掛けた。